

佛藏新五百題

^ 5
4667
2



門 八 5
號 4667
卷 2

立 秋 初 秋 錄
七 夕 星 合 秋 錄
盆 市 盆 月 合 秋 錄
施 餓 鬼 墓 參 月 合 秋 錄
攝 待 生 身 蒐 踊 燈 籠 迎 鐘 魂 祭
花 火 相 撲 御 射 祭 殘 暑 初 嵐
秋 風 稻 妻 霧 露 朝 顏 秋 海棠
柳 散 木 槿 萩 朝 顏 秋 海棠

昭和十六年一月十二日寄
尼野實英氏贈

女 郎 花	藤 袴	真 葛	秋 草	冬 瓜	鷹 吹	鈴 虫	螭 虫	蝻 蝶	鱸
芭	拈 梗	吾 亦 紅	草 花	西 瓜	鷹 打	蟬 鳴	蟬 鳴	秋 螢	
尾 花	鼠 尾 草	露 草	稻 花	葉 生 姜	虫	電 馬	藻 虫 鳴	秋 蚊	鯽
茨 荻	芭 蕉	野 菊	早 稻	紫 菰	蚤	蝥	蝥	秋 蠅	落 鮎
蘭	葛 花	曼 珠 沙 花	青 瓢	唐 椒	松 虫	蜻 蛉	蜻 蛉	蚌 蚌	鰯 曳

八 月	放 生 會	今 日 月	月	馬 迎	夜 寒	殊 雲	持 衣	稻	黍
葉 月	初 月	良 夜 雨	雨 月	初 汐	肌 寒	秋 山	案 山 子	田 刈	芋
八 朔	三 日 月	良 夜 蝕	秋 月	秋 日	朝 寒	秋 水	鳴 子	于 稻	罌 餘 子
田 面 日	待 霄	十 六 夜	月 秋	秋 夜	秋 寒	野 分	引 板	落 穗	柿
彼 岸	名 月	月 見	馬 牽	長 夜	露 寒	秋 暮	漆 水	栗	蕪 柳

野宮別	斗市	九月	新余	鴟	雁	藥	秋野	德芦	葛
秋別	十三夜	重陽	新酒	乙鳥歸	鴨	木賊刈	蕎麥花	刈萱	葛紅葉
露時雨	後月	菊酒	後離	渡鳥	鶉	鹿	蓼花	雞頭	初紅葉
秋時雨	名殘月	後離	十日菊	鶴	啄木鳥	鹿笛	烏氏	紫苑	芙蓉
露霜	御還宮	十日菊		蛇入穴	稻雀	初雁	木綿摘	花野	水犀

暮秋	松露	栗	梅	秋霜
九月	落水	椎	未枯	紅葉
崩	菜	抽	柿紅葉	
細代打	通竹實	梨子	草紅葉	
行	菌	木實	菊	

冬目錄

初冬	十月	神無月	神道主	玄
十夜	達磨忌	大師講	御命講	御取
翁忌	惠比須講	神迎	小春	小六月
冬日	冬夜	冬月	初時雨	時雨
夜時雨	松風時雨	初霜	霜	霜夜
初雪	冬雨	木枯	冬之色	冬枯
寒	牙	脍	輝	爐閑
口切	巨燧	冬搗	冬籠	埋火
火捕	火鉢	圍炉裏	掬	炭電

炭	頭巾	煖婆	帝衣	蒲團	衾
茶花	掃花	冬柳	冬牡丹	水仙	枇杷
寒菊	石落花	冬芒	枯芒	枯尾	芒
枯菽	枯菊	枯草	冬草	枯芒	芒
枯蓮	麥蔣	蕎麥刈	大根曳	蕪	蕪
干菜	葱	木葉	落葉	紅葉	紅葉
冬木立	冬野	枯野	朽野	冬	冬
冬田	冬川	水鳥	鴨	鴛鴦	鴛鴦
雁鴨	千鳥	鳥	木兔	寒苦鳥	寒苦鳥

鳥	寒	冰	吹	報	吹	霜	杜	鯨	鷓
叫	梅	柱	雪	恩	草	月	蛻	河	鷓
鷹	冬	凍	志	講	祭	冬	網	代	冬
落	椿		卷	<small>芝居 顏見世</small>	燒	至	守	豚	雀
州		雪	霰	雪	空	髮	柴	饅	冬
力	鷹	車			也	置	漬	汁	雁
州			霰	雪	忘	神	夜	杜	冬
	狩	換	霰	見	鉢	樂	與	父	鳥
		冬	冰	夜	敲	子	引	與	冬
	煖	梅		雪	寒	祭	生	海	蠅
	鳥				念		鹿		

師	入	年	煤	年	行	大
走	寒	冬	掃	用	年	晦
川	寒	追	餅	意	岡	日
心	雨	難	卷	忘	見	年
子	寒	於	衣	古	年	夜
臘	月	賣	配	曆	籠	除
八	藥	節	年	春	歲	夜
佛	喰	季	市	待	暮	
名	乾	候	年	來	大	
事	甦	等	木	春	年	
始						

俳諧新五百題卷之三

田喜葵護物輯

○秋之部

立秋

馬買の小笠ふ木のく川日く
陰桶のくくハミ秋くふくく

白雄

後志

秋く川や火をくくつ門の秋く

土卯

くく秋まや稲葉のけくの家

申氣

杖立てたくくおふく米くく

三顧

初秋

初秋よくくくく塚のふく
くく杖の澁志くくく小萩く

可都里

宮菴

俳諧新五百題卷之三
田喜葵護物輯
立秋
馬買の小笠ふ木のく川日く
陰桶のくくハミ秋くふくく
秋く川や火をくくつ門の秋く
くく秋まや稲葉のけくの家
杖立てたくくおふく米くく
初秋よくくくく塚のふく
くく杖の澁志くくく小萩く

文月

くらつ始まきーハらの本さの竹々
 初らまぬ菰まで通るるのりー
 くらつ秋や猪ー濡る唐るー
 鮎の菓よるるるーむやらさの秋
 松うけやるるるーあーんさの猪
 水るるー鯨りーけもささの蝶
 くらつ秋まらるるー花
 然雁のそるるるーやら秋
 草の中ふ蓮ふるるて又月る
 又月ハあるるるるるるるー

葛三
 叙来
 丹霞
 存義
 李川
 友國
 東李
 護物
 牛心

天川

くらつ月や母の白髪のくらつー
 又月の小竹あつーおある
 又月もるるるる町の若供者
 くらつの川田今のをるるるる
 用もふるるる舟宗出けやらの川
 破ちるるるるるるー天の川
 虹のけるるの川るるるるは
 くらつーおあるるるるるの川
 くらつやたらはのむものいける
 系者の父母まきー七日の夜

瑞馬
 菊塙
 護物
 乙因
 弓雄
 乙彦
 樂水
 樗白
 の於里
 篤光

七夕

星合

七夕やお花かひ免く川むくひ

茶静

星のくハ風のまゝ来りたり

し二

星合やせし出てくるは鳥の人

圭

新くはもくけうや星よ麻くら後

一愷

川鱈も星まら魚、若のくへ

南井

けい合や若き子控し鞠くらは

菊塙

少ぬの尻もふつし星のる

雪人

星のふくく書のあるや赤ぬき

而男

けいのる舟流ししししり

何丸

星よかしてせぬはり裸、か

宗雨

貸小袖

七夕雨

盆

盆市

くくや梅干ききかー小袖

棠兆

障子のせえてぬき人貸小袖

訓心

人くつて巻ふいしー盆ふり

春進

ワきてハニむさーくー盆あみさ

上朗

草のくま油くけくー盆の膚

詠席

はなまやとくを伸て盆ふり

洞

くまあもくくちう盆のや盆用を

全長

くくかてぬきさあく盆供は

奈手

草市や若きくまあ盆くら

雪権

くくくくや水川まや盆用を

と

盆月

盆の月人の中をソシ居るく

澧水

筆くくの所の家くくー盆の月

夕夜

大玉の影もくゆや盆の月

時喜雨

昔父入の影もくゆや盆の月

石芝

迎火

迎火や少振へひけく月もる

鳥酥

ひしやや桑くらえてるくぬ家

全彦

迎火や樹もく物のはまつ

掉歌

ひし火や山根をさる草の如く

奥良

迎火くらく舟入や洋の色

秋舟

迎鐘

月くくくくくくくくくくく

双湖

魂祭

ウシ海はくくハおくれとひくし侍

成之

おくくそハ流くく桑よ迎く侍

護物

鬼柳やくの世り果も菊の露

士明

あまのまのまの夜蒼む女郎花

真怕

鬼柳の癖もさほく夜明ド

季道

陰も盆の侍もくくく鬼まの

松夫

飄草も子供もくくくや魂系

琴女

施餓鬼

施餓鬼初秋ハ去くそらのせく

宗居

七夕のそりくくまの施餓鬼

全彦

菓子の蠲施餓鬼の飯もくく

鷗里

墓参

蟻のあはらけりて墓の尻茄子 關更
 墓を系下流く夜あつる寺の門 菊雄
 志ぬる子何そうけく墓系で 楚狂
 うう安きむを折つるやとらの身 紫山
 鳴りものよ波世さけりや墓系 玉光
 心し川燈籠在家の月かき消す 女房
 馬次の夕川さうきき 燈籠 芳之
 吹雪の春此は流はくぬ舟や燈籠の火 可磨
 教有てんかき川の燈籠 硯毛
 燈籠のけけささやく 親子 一山

燈籠

高灯籠

寺の里や稲葉の末は柳燈籠 蝶夢
 手流りや言灯籠のまへへ 白雄
 月魂のやけりまのりて 柳儿
 ねりものさよひて 揚灯籠 公朗
 月もねりあけりやあつる燈籠 石芝
 おくまやや芒末馬よあつる 嵐丈
 送り火の消るやけり日 鶴峰
 送り火やあつるやけり 禁持 一山
 櫻付の産くれぬふはけり 雪雄
 櫻待の新茶のさけり 鶯厨 護物

櫻待

櫻待の新茶のさけり 鶯厨

護物

生身鬼

翠々々ぬり入故りよれ生身鬼
幽々鶯の汝もそれう生身鬼
手車のくひの月や生身鬼
ゆきと矢のち所越てまゝ
おれと踊の中を通る
呼合てもゆる踊りわかれ
周りかきまわす世界や盆舟を
おとりのほろいそや流し舟
はく入やこいを流る面のうち
はく入やまも流しく小盆

志げ

文貫

護物

蕪村

暹素

無一

唐洲

江川

存義

冷氷

衝突入

捨扇

一杯の華をかめく扇おく
扇を彩やとく小鶯のち
おみお糸の伝と扇や持扇
月うけや扇うつり卓の宿
おとくうつり果は花とく
雨雲のさく浦田の急火うか
後よのい花もちか仕舞い
これとくいろとる世も花とく
おとくいろとる世も花とく
とくいろとる世も花とく

乙二

光浪

菊後

一雨

玉珂

義香

兔水

雨走

菊塙

花陶

角カ

かき傍のねもろをふき寄お撲
投く罪々白髪よきうまうしん
うまうしんのよたを云あや角力くる
笑をもつもの海一こや角力え
御射山やまのよの毛うまを里
神をのこむくたえぬ徳を作
子も船も中流よまをそ徳赤花
くくくくくくくくくくくくくくく
山抱子の花をえん付一好早う
蜀黍のむつうけふる好早う

残暑

御射山祭

挂枝
五防
素撲
曲阿
脚更
車蓋
石芝
今茂
昌三
夏多松

草稗の田まよく流む好暑うね
照ちうく日の中はやう初うく
門限の縁もさうさうく
かき碓の利さやうく初あさ
さつら風いさうの小貝も口う
けちめさうくねも白一初春
秋もくぬねの筋よさうの
秋もくぬねけいさう賣のくさ所
先業の采折さやねりのせ
杜風やぶささうする筆のさや

初嵐

秋風

護物
嘆山
今彦
涼濤
奇石
炒扇
乙二
二秀
大常
梅間

稻妻

あぢかや小家の多き里をふく
 稲つまや一村後け宵の
 いふ妻ふあゝの巾比むる
 稲妻やうけうてふ袖ゆる
 いかほよハ芦やのみのかの
 稲妻やたまふてうける舟の
 朝方の周をへくす車
 停きし朝の芳かよふ上
 寺のまやさうくさす鐘の
 舟曳の肩まをぬる山
 社口
 昔記
 真島
 桑山
 旧友
 ささ雄
 土朝
 土助
 土五
 松麓

露

朝露や馬の噴るきはる
 秋の白ハ似る粒ま
 初霜やふくくゆる寺の
 露はまはるものやま
 ふけいふ替火もきぬや
 老く家のうくをけりや
 かろうぬ人よきん相一
 庭のまはるやまの
 まる理立工落るき
 草鞋くくもく相の一
 ちうさ
 六車
 五葉
 川二
 五繩
 麻彦
 月居
 山
 袋松
 女
 子
 志

桐一葉

柳散

柳一葉もそよぐかき人さ似し
厚鴨の足らみしりしちし柳
黄昏や當らふそよちし柳
そよれそよちしし柳散るり
るる人らそよ通るりし柳
柳ちしちし江の日もすし
日ハ花の中ちしそよる木様
そよ火をるそよもそよし木様
そよ来て咲ぬ小るの夕木様
折らも後ハそよるそよ木様

風谷 蘭 東一 甘行 玉珂 ちし 五明 宜啓 巨水 呂律

木槿

萩

およせて花のそよよ白木槿
夜のそよちしし萩門のそよ
浪よちし萩やそよし秋をそよ
そよそよちしそよのそよそよ
折らそよの余らそよちし萩のそよ
そよそよゆるそよめそよのそよそよ
朝のそよやそよ利の門はそよちし萩
朝のそよしそよのそよちし萩
朝のそよのそよちしそよちし萩
朝のそよのそよちしそよちし萩

朝顔

さき雄 暹月 篠雪 可陽 里外 美山 瘦 雜問 丑蓬 蓬栞

秋海棠

あさひやうひやうけぬ牛の角 巨洲
 秋海棠の葉は向ち 片背し 鳥餅
 秋海棠茎より 花は赤より 五明
 母を嘲り秋海棠を 深きと 春鴻
 片よりぬきを ちきく 嵐庭
 しのむや秋海棠の かく日と 鳥徑
 けさ木は赤より けや女郎花 斗山
 伸るこころやうら けぬめらも 茶静
 夕うけらうけ けの おもひ 双湖
 草よりけらうけ けの おもひ 而男

女郎花

薄

子もく 咲むよはの けり 護物
 世もく 咲むよはの けり 菊雨
 遠くけり 咲むよはの けり 我竟
 中へく 咲むよはの けり 菊成
 かのく 咲むよはの けり 百雨
 人へく 咲むよはの けり 五頁
 夕うけらうけ けり 祐昌
 ちりまのく 咲むよはの けり 屋鳥
 尾系らうけ けり 草臺
 て中へく 咲むよはの けり 茶静

尾花

萩

夕るのききもいそぬ屋花りふ
 倫市
 洲の芳の萩くくむき家居くを
 馬印
 飯持ぬ下葉とれむ心風の萩
 成美
 萩のくくすこ立ちた月夜くぬ
 菊也
 子けの家の中はまきく萩のまき
 麻直
 昔もむくくハ萩のくハハ萩の
 杉長
 月夜く先知く萩の自ひくを
 士明
 葉白く萩のくまきひあくくれく
 乙二
 石菖も飽くすくぬや葉のま
 茶静
 昔のまきくぬまぬ夜の萩
 芳居

蘭

藤袴

葉のまや葉の飽くくゆりく地
 草夫
 新葉のく袴のまきく心葉くは
 巢北
 葉袴くくはくまきくまきぬ也
 葛三
 心知くくむかきくひぬ葉袴
 巨昇
 古き世の花て昔くぬふち袴
 一肖
 まきくくくくゆり花屋持仙も
 蕪村
 古世欠きくくぬくぬむか袴挿く
 今も葉
 山里や袴挿くくくも賣くく
 首三
 早くくゆる袂もくぬか袴挿くぬ
 護物
 みくくくくの花屑くくくくも也
 春嶋

桔梗

萩尾州

葛花

前屋まのや 葉を撰ずる 竈の口
みともまのわらうの比人よ 宿むは
こそは 葉の吹と水 釣もあを之よ
崩屋竹や 比もは けぬ水の 疲
破るももんもの なくものくま
芭蕉葉よのまをまぐり 釣もく
吹そへく 夕のくま 芭蕉の 船
大中の船 村よ 芭蕉の けを
昔天よ 母まの けを 芭蕉 へ
うせ けの 葛の 花も おもてあ

宇橋 彦南 文貫 双湖 揮良 鳥頂 晋和 草文 龜山 且

芭蕉

真葛

雨をよよとく 地や 葛の花 多る
ふいそこの 子ハ 倒るる 葛の花
よふ日 山も 葉を 吹と 葛の花
葛の葉の 恨も 白なる 細るる
葛の葉の 吹と ぬれ 葉の 意い
葛の葉よ ふく 人出 けり 蚊の 志
けり けり けり けり けり 葛の 花
大粒よ 水は けり けり けり けり
昔亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
谷も 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

竹馬 曉河 古玄 燕村 全彦 彦雄 八朗 杜影 圃亭 米室

吾亦紅

下

三

露草

露子さへ死なして引ぬるれしう
夕もあも露もあやあや昔もあ
露はくさやけはもさきさきの
はゆまの露も消えう夜の
手流るの露も消えぬ穂の
あ草はた夕のふは還
あ川のあは遠きくははそ
川くさやけやあまふさの
あもあてふさあもあは
あはあもあてふさあもあは

杜英 保吉 扇賀 關更 美山 ちを みる 掉歌 蓋風

野菊

蔓珠沙花

粟稗はあまふさあもあは
あまふさあもあてふさあもあは
はあまふさあもあてふさあもあは
泡のふさあもあてふさあもあは
山はあもあてふさあもあは
秋のあもあてふさあもあは
あまふさあもあてふさあもあは
あまふさあもあてふさあもあは
あまふさあもあてふさあもあは
あまふさあもあてふさあもあは

雀角 乙二 玉光 宇橋 葛三 微席 濂川 茶静 子代

草花

蜻蛉のまをさかしくあはぬ川の系

乙二

畑の草も花も咲く

菊女

苗をよする免の草ももまのり

鱗

川のほとりへはるる

笙

岸もよも集まると

岸芦

くさくさのまをさかしくあはぬ

吐月

草の枝もあはれ

菊咲

早稲のまをさかしくあはぬ

二風

雷の音もあはれ

長翠

稲花

早稲のまをさかしくあはぬ

早稲

よさ里や門口まで

梨公羽

早稲のまをさかしくあはぬ

時喜西

早稲のまをさかしくあはぬ

宜彦

早稲のまをさかしくあはぬ

烏命

早稲のまをさかしくあはぬ

蘭更

早稲のまをさかしくあはぬ

友琴

早稲のまをさかしくあはぬ

鳥南

早稲のまをさかしくあはぬ

國村

早稲のまをさかしくあはぬ

若居

早稲のまをさかしくあはぬ

白雄

音

冬

冬

冬

鳩吹

山伏の鳩吹まふ入りけり

嘯山

鳩吹そくねをけり挿ちり

春鴻

鳩吹、袖も濡くも持りけり

竹吾

推搦子鳩吹くくあしとく

凡二

旅伴よりあそびむし鳩よけり日

護物

鷹お

鷹おちの縁はけりく小ねふ

掉歌

鷹おちの久しうい海士の宿

如翠

鷹おちの父はあつり一人

一青

虫

虫おちのけりけり人おあそび

魚文

虫おちのけりけりあそびあそび

蘭窩

蚕

草の戸や白も蓋もむしり

万丸

虫おちのや田をむしり山の人けり

周居

虫おちのけりけりあそびあそび

く丸

虫おちのけりけりあそびあそび

不審

蓬生のいきんまけりや蟻

蘿月

そんおちのけりけりあそびあそび

月蕉

虫おちのけりけりあそびあそび

徒丸

樹の軽丸人おあそびあそび

曉河

松虫

草の香気松虫あそびあそび

宗讚

まつ虫やあそびあそびあそび

菓兆

鈴虫

松虫や鈴虫の音

孤山

鈴虫の音はくさくさすれり

外六

すゝ虫をけしむ結葉もやぬり

今春

鈴虫よふりし袂の油煙り

塔山

鈴虫一やきりし合し小姑

護物

あふ井や鯉をみる外はま

白雄

鯉の姿をみる河原のま

花川

鯉もくまふくすぬまの柳

今春

鯉の姿ふくすぬまの柳

葵亭

鯉の姿ふくすぬまの柳

李尺

鯉

竈馬

あふ夜やきりし合し小姑

尾諸九

あふ夜やきりし合し小姑

魚徒

あふ夜やきりし合し小姑

弗水

あふ夜やきりし合し小姑

了了

あふ夜やきりし合し小姑

櫻堂

あふ夜やきりし合し小姑

乙二

あふ夜やきりし合し小姑

慮一

あふ夜やきりし合し小姑

曉河

あふ夜やきりし合し小姑

有月

あふ夜やきりし合し小姑

玉珂

冬蝨

蜻蛉

蜻蛉の子の海に釣るや人ほつ

玉珂

蟬 蟬

蓑虫鳴

うささささ 晴吹のそよふ 小溝のわ
 ちちちち 胡麻売のころころんほい
 ちちや 盆供のまじりまじり 柳起
 とんほい ちちを細虫のちちの涙
 川よきそ 蟬啼のうらぬ下り 護物
 蟬啼のまじりまじり 早うか
 まじりまじり 蟬啼のくる 輪之
 蟬啼のまじりまじり 草の上
 うはさささのちちちち 小葉の
 みのちち 桑山ふのちち ちちへ

一蕙
 一岷
 柳起
 護物
 ちち
 掉歌
 輪之
 ちち
 千河
 重厚

蓑虫鳴

鯛

蓑虫のちちちち ちちちち 可都里
 みのちち ちちや ちちのちち 吳友
 ちちのちち ちちちち ちちちち 輪之
 蓑虫のちちちち ちちちち 扇賀
 ちちちち ちちちち ちちちち 掉歌
 ちちちち や水のちちちち 石馬
 ちちちちのちちちち ちちちち 桃生
 ちちちち やちちちち ちちちち 蝶夢
 鯛のちちちち ちちちち ちちちち
 ちちちち やちちちち ちちちち 首三

可都里
 吳友
 輪之
 扇賀
 掉歌
 石馬
 桃生
 蝶夢
 ちち
 首三

秋蟬

桐やこえおとすまての秋の聲
けしきもや菊の香も秋の月
松の影も晴はくはるる秋
千尋の石もあはれ秋の心
蝉のせも秋もあはれ秋の心
まみりもあはれ秋の心
糸の影も低きもあはれ秋の心
地うらやもあはれ秋の心
用はあはれ秋の心
かたもあはれ秋の心

秋蝶

木海
輪之
音羅
守一
東一
楚提
了る女
雁路
音樹
李李

秋螢

海切のこもあはれ草や秋の心
秋のこもあはれ草や秋の心
秋のこもあはれ草や秋の心
川流やあはれ秋の心
ワケのこもあはれ秋の心
秋の蚊やあはれ秋の心
くけもあはれ秋の心
朝白のくけもあはれ秋の心
螢もあはれ秋の心

秋蚊

九鼻
石雄
吟彦
掉歌
凡二
蘭更
文芝
一肖
曉臺

秋蠅

蠅もあはれ秋の心

曉臺

初 鞋
 蜂の觸夜さらのありを共ひ
 字はくむを西もこりり
 ろうの蠅
 ちたけい人を信アうはゆめ
 くり鞋上里の糸日定たき季
 物鞋の葉の小家よは日わ
 くらゝ子の衣く双らんはゆめ
 くらゝやせいの衣る葉の衣
 ちよゆもはゆめものく鞋く
 百こゆやろり衣心鞋く
 夜けをさるる子死すさか

春鴻
 詠帰
 竹馬
 得雨
 さら雄
 宇橋
 一肖
 太無
 宗讚
 こら辰

鞆
 初 鞋
 物人上並りく河原中夜うた
 糸まゆくメのそくわか
 押水お友はくく
 畑枝ハ夜の所達
 管くけやうくくつ
 夜ゆりや落そ人知る淵の鞋
 花の鞋ふはあはしは夜
 秋の鞋本あしは流もくはん
 鞋の脊や衣るるはしは
 杜原一鞋るるく山のかし

關東
 萬三
 萬井
 杜蓼
 万壽友
 白雄
 保吉
 春谷
 双湖
 太郎彦

鯛曳

しりたてゝもはくいしり
らあややひしりの上のかしり
か鯛の味よくあつや月えり
しりあはれ細や鯛とくはり

万紀
李尺
梅壽
文貫

八月

八月やゆもこのあめ海
八月の二日八月をさるるり
八月や起つて帳つる夜も
八月も結よいてぬももか
字かき草紙とじる葉と

全三
存阿
浦人
掉歌
壺干

葉月

八朔

あめりくは風まては実の八月
あめりくは帷子まては葉月
八朔や旅ハ旅さるる物さ
八さや船初まては打洗
八朔の巻も川町の寺
八朔の巻も川町の寺
八朔や掃除くはは雀堂
唄は丘尼もの門もさるる
橋の巻も時免くは田面り日
油さくもあめあや秋岸入

文貫
里さ
曉臺
春鴻
未木
鷺溪
芳居
春鴻
ちる
芝得

田面日

秋彼岸

下

三

放生會

流し藻の実をすくはば	彼岸を	亀大
包うし推めらば	彼岸を	南井
おろし一月夜	放生會	白雄
あつて半か	放生會	竹世
立はぬき	放生會	一菓
放しき	放生會	茶壽
そきく	放生會	一蕙
初月	放生會	嵐夫
初月の趣向	放生會	早橋
麻屋	放生會	東我

初月

三日月

待宵

二葉草	草	芝得
初月	草	草夫
三日月	草	士明
黄昏	草	素樂
角力	草	芽行
柳の葉	草	天光
待宵	草	卍夫
待宵	草	保吉
待宵	草	全彦
待宵	草	輪之

名月	付香のりゆけく 珍るけ	与人
名月	才川や月やまづなほのさき 兔 罟	五繩
名月	名月や夜ハ人すまぬ 峰の糸を	蕪村
名月	名月やまじまの 野に汐を	野渡
名月	名月や文てしるさ 舟に若	鳥草
名月	名月やあくく 麻の 顔ハ形	雪彦
名月	名月やまはハ 山く 金くは	さき 権
名月	古寺のものしるし 柳まより月	白居易
名月	のりしるし ぬ水 善むる月	夢典
名月	花をくはくく ねや とも月	土岐

今日月

良夜雨	名月	良夜蝕
名月	此大いし 柳けくもてりよ月	月化
名月	出迎くぬくく 八かくよ月	茶靜
名月	名月やゆきくく 森の 有	土朗
名月	名月の白くく 雨に 粒	可都理
名月	月ハ 侍ておの ちきく ぶさる	乙二
名月	名月 けぬ 雨の ちきり くの 月	素龍
名月	濡く 出ん 侍中 けく 月の 有	護物
名月	くく 侍中 なく ちの 月の 蝕	北眞
名月	蝕く じや なく ぬ 月の 糸を	孤山
名月	蝕く ぬき 名月 なく ぶ みるし	護物

十六夜

いさよ浪をうらむいさよ月夜よて
くまやうもいさよ月よちひりく
いさよいさよ採玉出しくく花若荷
十六夜や戸をくくくまは尼寺に
いさよいさよもよ夜やまき芋の露
月よぬも萍のやうのくくく虫
特うれそ馬のくくあつ月えくか
戸はまきく浪さす名の月えくか
七浦の風を袂く月えくく
名のけくぬ夜を素宿の月えく

杜蘭 冥 紫明 南井 虎曉 存義 押良 繁葉 芳代 一峨

月見

月

月くくくやあちくくく 夢のくくく
月くくくくくくくくくくくくく
月くくくくくくくくくくくくく
人くく曲らぬくくくくくくく月
さす月よ勢敵のちのくくく也
くく月くく浪のくくくくく月
るくくくくく月くくくくくくく
雨くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく月
月のくくくくくく夜田刈のくく

還古 草友 路堇 文昆 押良 士明 成美 亞漢 輪く

秋月

あふらふ夜はかろくくしゆ新り月
入おとんけくくくくく 秋の月
生れくる日ハ忘るれり 秋の月
おとこらのせきをこくくく 秋の月
深山はゆえく昔の 秋の月
月の秋池のこくくく 秋の月
田子多の存ありむ比よ月の秋
急角くくくくくくく 秋の月
花くくくくくくく 秋の月
ゆきくくくくくく 秋の月

雄測
乙彦
藤文
宜彦
翫二
みろ彦
周里
一肖
護牧
春鴻

月秋

駒牽

駒迎

初汐

駒ひきのちくくくくく 湖の水
駒曳や由基をくくく 昔くくくは
くくくくくくく 遊まくく
駒曳くくくくく 一肖
けくくくくく 太無
駒をくくくくく 井丸
皆すれくくくく 茶静
くくくくく 掉歌
初汐くくくく 雉扇
くくくくく 蟠

淋山
玉光
春葦
一肖
太無
井丸
茶静
掉歌
雉扇
蟠

秋日

石垣やうの汐のくる樓の宿
うつ汐や鴈のつゝやうの宿
つきの日はるふくれそ月夜よ
焼のりや川を鮫め砂まよ色
あふの日はわさるおや移茄子
あふの日はわさるおや移茄子
焼のりや川を鮫め砂まよ色
あふの日はわさるおや移茄子
あふの日はわさるおや移茄子

州夫 一首
木僂
輪之
五繩
茶静
梅溪
完堂
卜鰯
木芽

秋夜

秋の夜ハ橋の一葉をささるふ灯り
つきのあふくをささるふ灯り
もさ夜や子よまあうくつ物の影
門あけくもささるふ灯り
あふの日はわさるおや移茄子
あふの日はわさるおや移茄子
あふの日はわさるおや移茄子
あふの日はわさるおや移茄子

尊夫
不玉
哀丁
不尽
ちつき
う香
蘓尺
杜蓼
魏道
可厚

夜寒

夜寒さよめす汐や東まきの灯り
夜寒さよめす汐や東まきの灯り
夜寒さよめす汐や東まきの灯り
夜寒さよめす汐や東まきの灯り

可厚

肌寒

石臼のうらうらびきや夜まきの燈
淡柿のたぐさのくまきく免く
新くくき新くき夜の柱う形
新くくやと先とと夜一夜の蝶
くくきねとく免を板のかしら
新くくや人々居の家の硫黄小原
厚風呂のくかきくすうく新くきこ
新くくの万年ききよりは雪う形
新くくやきうくけくく水ぶく一田
朝きく一日新くくてある糸の隣

梅壽 梅塙 蘭更 春鴻 真蓑 樂只 梅壽 此山 尺女 掃石

朝寒

秋寒

新くくや氷のわくくハく形柳
新くきく一竹もけけぬくいけよ
新くくや山もききくくよきのつ
く新く口をかきぬく蝶のまき
秋まの新くくくくく後家うき
新くくくくくや葡萄すく新日
新くくくくくくく見上る櫻う形
清ゆきく一筆うけくもあやう汁
新海老のききき新くや新くき
くくくくくくくくくくくくくく

東峨 掉歌 万丸 石芝 茶靜 茶靜 清風 太即彦 茶靜 吳山

秋雲

露寒

秋山

一筋の峰々築り夜のき
持控一掃うらちもや秋の雲
友情の夢を久しや秋のき
杖の雪越の町を通り
かきこふる海に對して杖の山
の川がアアと流るる杖の山
秋の山豆の眼さしおろるも
らまの山をさるる杖の山
人々のついでりも杖の山
沈むの限は行くも杖の山

萬里
梅笑
麻直
宇橋
騏道
菊也
乙二
野松
玉光
猿丸

野分

りやうや大葉ささるる
子をかよのきくも杖の山
夕うちのうらなも杖の山
掃のくはるる杖の山
市人の夜をさるる杖の山
さそつやまのまはて雷鳴す
杖の山根をさるる杖の山
中ふんせもせも杖の山
稻妻のつらさるる杖の山
持りて寺にさるる杖の山

鳥明
檉堂
菊塙
一肖
蕪村
春鴻
葛三
乙二
雨塘
無説

秋夕

紫山子

角力家の投出すは秋のくま
毎日や秋ハ夕の多うくま
御ちあよきはるる 今や秋のくま
洛中よ首自家のくまハ夜砧
糸うまーしきと乾くぬ衣ーつ
なう川ーきや海草のむくは日土
五多川や思のまはるもその家
まぬくころは仕舞を月のまはる
於人日も持てて老けかーし

誓雪
漫
茶静
菊塙
牛火
月居
南阜
鎌
良談
鳥餅

橋衣

鳴子

引板

つるえーや推を小くままー
尺はやまーしきと乾くぬ衣ーつ
紫山子まて杖う似付子片山家
んまき紫山子まて川月口
痛ておけく務まのちーしきま
ま川くまのまはるまーしきま
何まよまままけくままの窓
風吹くままらまーや水ま子
まままー人まらゆるや芦の毛
山はのくまを候りや引板の毛

雪人
曾牛
白先
と福女
武陵
棠懋
瘦菊
白先
赤樟
白養

漆水

ささくもたけくもくも引板の春
あーんーも峰よりくー引板の春
山の待も遠き夜はや引板の春
引板の春よまきや小里の人の春
おふーもくもく水めくけや人の上
写るは流氷あふー月の中
夕くまの月口くーくはく水く
くくくく日くくくくく水く
稲の秋系も雀のあふくく
稲々穂こめくくー門の細流は

應窟
来石
菊塙
護物
白雄
乙二
并六
千影
得雨
北依

稻

田川

稲の白ひてく川くくく
蒼き稲の柳もくくぬ稲むく
老ねのあふくくくく稲の柳
あ田川や水くくく身くく
外柳や芙蓉のちも門並く
稲くくくくくくや柳のくく
稲くくくくく付くくく小舟く
くく持の川田くくくく根く
稲くくくく持くくく山家く
山里や予稲くくく月の色

晋峰
禾木
栄枝
蘭更
と彦
笛と
雨木
士朗
馬印
表丁

予稲

落穂

稲下りや人の道より、穂の下り
落穂抄い日のあつらん、山の中
神のまゝに松の落穂、年々
先さびしー落穂より、雪の
朝風のおち穂えく、舟
ゆきゆきハ伏せよ、落穂か
粟畑の何を、山の中
山里や橋も通さぬ、粟を下り
鶴の窟ふかしの月夜や、粟
穂とせりく、粟やきのふの、

晋峰
蕉村
保吉
宗讚
竹馬
女
冬彦
一蕙
呂水
茶静

粟

黍

芋

零餘子

黍一種あどり、青の枝、戸は
粟の香や、芋の、芋の、
木下、初め、山や、
家鬼、縄、
尻尾、の、芋の、
暮、芋、芋、
鹿、売、の、芋、
芋、か、ら、白、く、
雀、類、の、色、
粟、の、な、り、

狐山
曉河
草夫
雪幸
泉兆
乙二
冥
輪之
冬彦
撰堂

柿

泣買子出る片番のむく
積るくく 價も里の勢
本さくの柿の赤さよ
筆掛の筆の付るる
多柿の葉をくくぬ
柿くくく人里をくく
作ちの秋ハ熟柿くく
室をくくく来ハ熟柿
吾も柿をくくくく
置るもハ果ちくく

雪橙 保吉 敬義 春葦 加毛 百丈 夢南 檎平呂 乙因 完来

熟柿

鳥

葛紅葉

久もくくくくく
戸のもくくくく
くくくくくく
いつくくくく
はくくくく
くくくくく
初もくく
初もくく
古もくく
初もくく

茶辭 玉光 春雄 春鴻 益羅文 魚皮 袁丁 蕉雨 女 龜丈

初紅葉

芙蓉

旂の子のきめくしきし初る業
立いて、芙蓉の洞しりく何人
をくくあゝ芙蓉のむの夕うね
夏うけの夕ははくしやちる芙蓉
乙るもあつぬや芙蓉さく
芙蓉さくし秋さくおとさくね
木犀のむよ歌あき白くね
白くねのくね木犀よくくまは
もの羽うせ木犀まきく考のきさ
あきあき畑の杜よ白くね

竹里
白雄
年六
冬六
應
彌六
一愷
竹馬
太無

木犀

穂

刈萱

芦の穂をかえさく月夜さ
むく草や秋さく面の穂よくは
小酒屋の口うけよ来ぬゆきの系
谷くね穂草をのむる秋り雲
かたさく刈萱はくくそのまき
刈萱の片垣草さくむ夕うね
くくくやのくくくくやふたはら
刈萱のト這ふるるのくくく
刈萱や山の白くねむく曇
新くくやまきくくくくく

松兄
菊紀
奥太
岸根
曉臺
士朗
表丁
杜蓼
炉扇
昔蘿

雞頭

下

三

花野

彩霞よ来ても只存芳雀の形
夕ぐけのやまを新や葉の心
新霞や酒樽流るるの中
あさきとぬ崎く、畑や彩霞
いり矢しく風形しくも世は
肉前てはさうさけく志は
花よ葉よ夕日く家海、世は
朝の日は輝しくかきく世は
酒舟の夜千日酔い世は
席杖よおのの風よく、

雪度
具翠
采砂
炉扇
雪雄
笑丸
秋菜
里丸
冷水
春鴻

紫苑

秋野

牡丹よの牛より下は茶中
世をよれよのや茶中
うらけけの風の袖をく花
朝夜よまをく世の松を
あきのややのののの
秋のやや中退るる心
畑のやをさる人夜よぬま
枝のややさるる夕日
名よふおのや茶中
夜よまの約まをく

し因
竹吾
壺羊
月鴻
保吉
可都里
秀哉
茶静
椿堂
千妹

蕎麥花

夢花

みそを馬とて北よ山家やそはり茶
大はりの畑一粒や夢麦の茶
そとの茶木の茶心山もさる港
太夢の茶を伸く花赤
傘さしそをさそく夢や夢のむ
盗まぬそみのつらそを夢の花
ひらぬそをさそく夢の茶
三日月のすそそく入や馬丸
ちりそをさそく夢の馬丸
朝ん夢の茶をさそく馬丸

孫夢
伯丹之
東我
藤壽
右雄
孤山
母を渡心
富陵
天民
利根古

鳥丸

木綿摘

佛也初移りりつり木綿摘
世の茶をさそく夢の茶
塊の角さくそをさそく木綿摘
花てふの老もそをさそく富
茶もさく人いそをさそく大
糧もさく人いそをさそく大
山人や老のちりそをさそく木
けさ木ハ橋も迹りそをさそく木
馬もさく人いそをさそく木
火のつけそをさそくやら山の家

乙二
輕舟
其翠
大江丸
曉河
壽翁
啓山
一來
来鉅

藥堀

木賊刈

鹿

うきてゆくものうらむもの
 らげの事此戸の口をて麻の衣
 麻の衣や百のうらむ麻の衣
 麻笛の切きくくくきくは
 麻笛や弓張月の入るうら
 たる笛のきくくきくきく
 麻笛の吹くくくく谷るうら
 夕川屋や日一すくくく
 夕川屋も実くくく屋もくく

翠川
 湛石
 探光
 茶静
 青し
 作見
 寛里
 雲舎
 工明
 克一

初雁

鹿笛

雁の来て古むく昔の池が
 来と心厚餅麻の竈何く
 初厚ハ来かく教のふくく
 沙先の来くくくく
 厚来くや身ハ来くくく
 雁の来て移の麻をくく
 管もや雨はくくくく
 厚来くや楓の来くく
 時ふくや多きハその
 時かこの来ハくくく

茶静
 草夫
 了く
 巴堂
 真恒
 太郎
 成章
 對良
 月居
 福茶

雁

時

鶉

夕雲のてしりくはや野のしり
二度と七野くら草おゆら
野突ておきさむ人も老止り
鶉おくらや桿穂さすむる
夕月や草むらうなく鶉
貞徳の富みの鶉おきしり
日ハ草の先さきまうさ啼鶉
啼おしてやえぬうらうさ
本つさの月お鶉く本らう
赤はさきのあうさうさ夕月お

斗圍 南井 茶静 桿歌 江水 蕉雨 喜山 表丁 柳堂 十二

啄木鳥

稻雀

あつきのそくハもあやうさけ
本啄多々蟻のそくハ 枝うや
うはさきのつさおしり百さ
焔おしり聖のハささめ 稲すめ
稲くさくさくさくさく 雀
似しりろろろろろろ 稲雀
よき人さよき名おひぬ 稲雀
稲さかく雀よまの日の出さ
はくしり何とぬき鶉のさしり
鶉あやゆら田入り入枝の林

月化 茶静 李尺 士朗 孤山 太昂 秋露 太郎彦 關更 完来

鶉

乙鳥帰

野も鳥の月夜もあやや渡中
 水けけのやうにもよめやねの竹
 山越や雪をこし守る百舌をうた
 秋の枝より帰る乙鳥の
 枯るやき律の音もなほ乙鳥
 長閑のうらみえいとうゆく葉
 蜀黍も羊枝かしくりこも
 横雪よるもたつねを野もは
 けしきも雨の音もくもはな
 雪や小鳥のうらみえいとう

ノ且
 可九
 ちき
 泉兆
 草均
 七越
 夕夜
 茶枝
 吾凌
 明良

渡鳥

鶴 鴿

鶴鴿のやま木をまきる
 せきまののりてふかす
 鶴鴿のそと
 鶴鴿のあつた月
 せきまののりてふかす
 鶴鴿のあつた月
 せきまののりてふかす
 鶴鴿のあつた月
 せきまののりてふかす
 鶴鴿のあつた月
 せきまののりてふかす

柳美
 表丁
 宇橋
 三化
 直也
 一肖
 電河
 毒葉
 一肖
 書屋

新米

新酒

新米や焚くおろす身も朝のむね
きえて訪の揚るべきおく酒
何おほくそまき出くりく酒
里並や坊ゆふ寺のそ酒
染てらる枝のハ新れく酒
授飯の操くふきくやと年酒

寒松 瀨陵 春鴻 恒丸 光浪 玉珂 五知 梅一 其嵐

九月

東ふじ枝のうらつとも九月
兼月やまきくあはく夜めを
おろき山の九月と焚く

重陽

移すきく日のゆきくも九月
菖ろもあつてまきく酒九月
酒の子のそれも入より菊
馬の屋もくおれ九月九月
酒やもむく酒りく菊の酒

茶辭 士朗 全表 乙二 乙二

菊酒

後雜

きく酒磯くまきく酒
柿の葉も子供ハ性も酒
出そ給ハ古き酒
かしはん終や其世帯のさく酒
ふはまきく酒の十月

蘭更 詠歸 瘦菊 明石 李翠

十日菊

殊市

酒客のゆく月一や十日葉 玉蓮
 後ろ居る手折も初ぬ十日菊 得阿
 かあへく十日とあうぬまきの菊 瘦菊
 糸市をせりて後ろりせ命古ま 玉蓮
 糸こも月夜半る糸折るを 紙山
 ね鉢をくゆひぬあうり市の外 さら雄
 山たもまうり鉢を糸の糸 出井
 備一もまの糸の糸やまのめりて 古久
 まその月も備えつ十日之夜 士朗
 裏園のうらふ早一十日之夜 上峯

十三夜

后月

月々やあうりやまむ十日之夜 太邱
 空ふらぼあうり月の葎の十三夜 夢南
 くつゝ家の月と挿折や十日之夜 護物
 うやまき一やういさ一やぬの月 葛三
 昔むくくまき入るやのちれ月 可都里
 居酒のむりうもあまぬぬの月 菊吟
 月の月地露を糸の鉢の月 茶静
 鶴崎の篠もけもてのちれ月 谿翁
 月まうりるのちれま 樽良
 月の文紗まをりく子れまぬ 太岳

名残月

下
 下
 下

御遷宮

野宮別

秋 雨

けすきくも月之余波うを
 とねの旭を川に似てく近文
 錦の香はくれくくくく近文
 中の名は掛くくくは候く
 中の名は掛くくくは候く
 火くくくくくく夜くくくは
 抄錦の敷あくくくくは
 山川ハ霧子濁くくくくは
 くくくくくくくくくくは
 大沙の川くくくくくくは

土朗
 白雄
 浚水
 詠師
 護物
 臥火
 流芝
 難扇
 瘦菊
 玄鮭

露時雨

秋時雨

露 霜

露くくくくくくくくくは
 けゆはゆ瘦く人あくくは
 あくくくくくくくくくは
 山は露の糸有くくくくは
 床て耳のあくくくくは
 くくくくくくくくくは
 秋草かくくくくくは
 秋も宮上豆麩の味くくは
 せくくくくくくくくは
 露くくくくくくくくは

蘭史
 得雨
 露竹
 子信
 王光
 乙因
 士朗
 九朴
 護物
 騏道

夜半のやまをゆく 秋のくは

舟のやまや 拍起の 杉原の 鮎 刺 穴

はゆきあや 後集の たるく 秋の 糸

秋 霜

横たはす 糸の 雲をむ 十 蟹の 菊

くき 竹の 骨をむ 秋の 糸

雁 鴨の 糸をむ 秋の 糸

紅葉

鯛の 糸の 骨をむ 秋の 糸

紅葉の 似 世所をむ 秋の 糸

茶 静

未 同

一 月

春 鴻

嵐 丈

守 三

く 正

不 騫

三 巴

く 正

生 鯉の 糸をむ 秋の 糸

紅葉の 似 世所をむ 秋の 糸

柿の葉

知れぬ人 糸をむ 秋の 糸

葉を 速く 糸をむ 秋の 糸

田子 糸をむ 秋の 糸

草紅葉

笑ひ合ふ 葉をむ 秋の 糸

紅葉の 似 世所をむ 秋の 糸

小糸の 糸をむ 秋の 糸

本免の 糸をむ 秋の 糸

山原の 糸をむ 秋の 糸

天 画

樞 月

夕 暮

葛 三

東 莪

虚 白

逸 英

子 信

孝 権

葛 三

下

五上

菊

葉さくや味まて甘くしては餅
みゆり灯さうちうたかき菊の香
菊の香や菊切(通)るるの酒
いつのるは移るやわき路の菊
是かこの菊は朝露の親父よ
き花さきよしの花梅もよ
身心く何の花をかこわらぬ嫌
溜桶の水くさくさく梅もよ
世の世と梅くさくさく梅もよ
く梅や木州ちくさく浦の町

梅彦
梅持尼
亀鱗
珠山
明良
廣陵
聖万
葛也
文貫
空彦

梅嫌

未枯

抽

末くぬや鮮きやうゆい 砂 俵
末枯や向もさうさぬら新家
く物や田見流るるきの体
末のまや頬白ふく顔よ小酒店
損ふしの抽も白ひりくらのる
い〜くえ〜く〜く〜 抽もま
月うけのまきむはく 抽り白ひ
桶もちの敷くけらや赤くむ抽
芝ののちさいさぬぬ 抽の白ひ
屏山の花さくさぬぬ 木更す

茶静
旬光
菜山
一月
力毒友
菊也
布席
魚の皮
みら彦
鳥酔

木實

下

りやや物やむく板の 実

普記

本氏の字のふりかへし月夜くく

蘿雲

味くいとくふおそくお本実く

哀丁

清ても実申す川く本実く

南井

梨子

梨をむくややらの月のききお

東湯

もやよくくは実のきき

可九

夜すくくきよはちきく新の栗

草圃

栗

栗をくく山はきくやや

弓雄

お換てくくくや栗をく

菅六

後栗やうくおのきき

阿守

推

川海よあけきやうお

百嬰

少くくくくまけや推の宿

吐雲

推の實くくめくくく

五繩

新の背くくむけて川ぬ推の宿

茶静

推のまや門口くくく

ちりき

後持やまよ外持の宿

白雄

菜黄

菜黄くくや山も志く

炒扇

くくの魚を替くく山の口

輪之

くく海に菜黄の宿をく

雪彦

くくのまや炊らふ牛は

推日さす

通州實

杖伐よりのるあぬさあけをの字

音峰

通草をむじ日わつてきや山の所

凡二

つらみくむおしや菌のうら

鳥明

そのいふぬ人初志そ菌物

得雨

様方や菌をうは古折若

孤山

協の葉よりけをむや菌物

警洲

小おむむるめをえよまのこ付

龜從

おむむるや新よる何の爺の家

有見

波きりくく入りりおむむる

守三

松露

六代のいさゆるの折の杖伐代

樂只

落水

二三尺程のゆきやかきり

月夜

ワラ門も免らうそ城一落し水

峰文

系堂の折せまらうや落し水

孤山

落し水夜々城はやうそむら

黙也

落れゆる葉よるも経木ト

杖意

よかま矢の流をそ外もくつれ葉

季音

山骨のやまをえしそ山内葉

宇崎

よるのちも折れぬそぬくつれ葉

木木

兼にる場をうらそあやらあ

成美

系もあを折してらう細代系

揮散

崩築

細代打

下

下

行秋

向し秋おちねの年貢をかゝる所
けり秋の塵ふ心あはぬこころ
ふしつらぬ声の末葉も秋もけり
まき叶の下葉も秋も二三日
ゆく妹を物さへしある葉汁うか
けり秋のゆくゆく煙の家つり
馬下こころる土のりあつたの葉
さへ母のいつくもさげし秋の葉
かりひきおとろもさへし秋の葉
旗のふしつらぬ秋ハ葉もさへし

草夫 省吾 与人 仙骨 雪人 有月 几童 春馬 壺半 咲菊

暮秋

九月盡

乙子の尾よる秋と暮るる
繩も居ぬ味の家や九月
葉へ出た運のこころ九月
山弓の袖ふきと暮るる九月
葉の終の日終つれり九月
はるそをふらぬか暮るる九月

万里 みる貴 茶籠 列二 菊馬 王元

田喜英護物輯

○冬之部

初冬

くひかやニツ子ニ着くもくは

梵臺

初冬や梅下の所のいこも敷

全三彦

くろみやとくろくくはわりの居

可盈

何となく冬の立くる茶本を

仙骨

くろみやとくろくくはわりの居

太郎彦

十月

十月ハ兔ノ糞の日南ノ水

雞路

十月のてふよとあすね葉の

百示

神苗主

十月や芒の中は水のたぐ	素樸
十月や朝白のうは糸の角	茶靜
十ろや猪の多れははれ猫	土光
死るまきれくさかー神を月	重享
小まの知も何やううそ月	泉光
日の何なる古鉄をや神を月	余年
まのやうや本実を体あり神を月	石垣
峰のたぐはを依ー神を月	東一
灯もくくそ糸上戸をけー神のろま	みろ夜
草も黄をくぬ葉子の神の苗主	穀命

神迎

瀬の島は余はくーさー神の苗主	女ははも
市津もは苗主をさうの朝のる	芳居
神の苗主平家とまきぬ家物や	護物
一月の苗葉も掃く神を月	蝶夢
油のたぐはをまむ神を月	樂水
神迎中の勢をさかすまー	一菓
山里も早くもまの免神迎	枝車
いつの代も破ハ死くう怪子儀	夢南
女房のたぐはをまきろし神	孤山
怪子講くそはくー白ハかろる	石芝

怪子講

作

作

玄猪

非市よりくけく鳥や地子講 春未
 采二非ハ養うやしのそ特う家 蓼々太
 口上のこれうきさぬめとう歌 吐月
 忘れ芽をふくやそ特の門のそ 万壽友
 とうこを白さ筆出さそ特ど 詠屏
 梅もさく穠きうそ特の口わう家 宇橋
 達テそわ後うきまき 皆うき志 蜂を
 達テそわ南了の今計の中 二二
 ちこテそわ人のえがぬ五日月 千心
 達テそわ山吹まき 一ツ 三兔

達書忌

大師講

十夜
 達テそわやとふてもうき碓の白 茶静
 了りの尾は蠟も付ぬえきうち所講 喜齋
 抄子うき辞やうき非大所講 宇橋
 恥うきうき守むらうや大所講 龜丈
 血脚もけうきき具うや大所講 玉蓮
 祢直殿をけうききまや大所講 みる辰
 ハ玄講も繋むらうきうき十夜も 月化
 雪うき雪白うき十夜の講うら 蕉雨
 名のうらけうきうき十夜も 露竺
 きうきうき白うき十夜もかうき 女 ちんき

御余講

梨子くらの座くわいや今武寺

兩塘

酒樽の車引けり馬今講

茶靜

清香講や傍よむるさきむら

一月

脊戸所や今武のむもさくら

護物

さくらさくらい文も椿も馬く

柳九

松くいの目おききよ馬を

桌北

亡八座の操れくーや馬く

完未

歩吉向しあすむるわとや岩ニ依

成美

隣ハ子のされりり馬く

文貫

旅守くく志く水の持よとて我翁

檜良

芭蕉忌

今ハ昔くきけくめくー十二日

無説

今武えくくくも来ぬ翁の日

みち彦

翁くくも菊のその女く吟く

挂裡

りくこの馬翁もさすやく扇

護物

形くくんを休ハ春のハや牛のく

湖内

風くく帆のきりあく小春く

百嬰

眞のくあもさくれく小くく

南井

山蟻の志くくくく小春く

梅溪

松くよよもくくく吟く

文晁

生海草下ハ浦又く物く小六月

玉屑

小春

小六月

朝の日の一輪す——小六月 可友
 杵舟のくくさささう小六月 北真
 中十日月もぬく——小六月 如松
 仲波の夜氣ささるや小六月 木木
 冬の日此さすや暖る菴の楯 樗堂
 田舎さくやささるの氷ささる 足彦
 鱈さすむ里のあしれやささる 東岫
 芝草の乾けささるささる 呂律
 冬夜の夜や菰ささるささる 士朗
 烏羽玉のふゆさ面白ささる 夜ささる 今もささる

冬月
 冬夜の夜や針ささるささる 雪雄
 さゆのさゆやささるささる 木海
 ささるのささるささるささる 護物
 ささるのささるささるささる 琴洲
 ささるのささるささるささる 三喬
 揚ハサ——先ささるささる 李冬
 月宵ぐささ押ささるささる 貞風
 入ささるささるささるささる 萬籟
 ささるささるささるささる 士朗
 立時雨
 立時雨ささるささるささる 澧水

時雨

石菖蒲のあはれとこの花のあはれ
いとこのあはれとこの花のあはれ
このあはれとこの花のあはれ
あはれとこの花のあはれ
あはれとこの花のあはれ
あはれとこの花のあはれ
あはれとこの花のあはれ
あはれとこの花のあはれ
あはれとこの花のあはれ
あはれとこの花のあはれ

茶 静
玉 光
太 節
遅 春
焚 之
猪 末
蒲 西
浪 元
土 既
可 都 里

夜時雨

初霜
松風時雨
初霜のあはれとこの花のあはれ
松風のあはれとこの花のあはれ
初霜のあはれとこの花のあはれ
松風のあはれとこの花のあはれ
初霜のあはれとこの花のあはれ
松風のあはれとこの花のあはれ
初霜のあはれとこの花のあはれ
松風のあはれとこの花のあはれ
初霜のあはれとこの花のあはれ
松風のあはれとこの花のあはれ

長 崎
士 明
護 物
乙 二
芳 居
豊 岡
鉄 船
扇 着
孤 山
椿 年



霜

有明の照りけりけり葉の
葉のけりけり葉のけりけり
かろ家の人目けりけり葉の
そよよけりけりけりけりけり
葉のけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけり
満月のけりけりけりけり
梅のけりけりけりけりけり
をくけりけりけりけりけり

千丈
斧杖
壺羊
黒水
くんせ
音阿
衛足
悦二
梅塙
護物

霜夜

初雪

初雪のけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけり
初雪のけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけり
夜半のけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけり

養昌
椿堂
ノ且
音峰
茶靜
吳光
永枝
旬光
石雞
雪三

木枯

木のけりけりけりけりけり

雪三

冬

本々々や川哉るり 鹿屯は休
風や友くつぬーく竹のくる
木枯や鹿よものや町たつ毛
こくーやめゆく月そよん 瓶
冬さぬや 是るるるゆ 貝の壳
冬さぬや いくさくまきまの奥
冬さぬや ぢぢぢぢぢぢぢ 袖
冬さぬや かくくくくくく 穴
冬さぬや 萩を履くくくぬ 鶯
冬さぬや 雀のくくぬさるの鳥

掉歌 荭野 南井 栄子 蘭更 祇徳 蘿雲 阿さ女 春鴻 存阿

冬

冬さぬや けりけりけり 水
冬さぬや 茶さけりけり 男
焼帛も冬さぬけり 畑の一
折くハ梅の下さくまきさく
冬さぬや よけるまきや 麦の中
冬さぬや 口馬はけける 草 籠
冬さぬや 白のけりけり ぬきまきさ
冬さぬや 土捨の壳や ちまきさ
冬さぬや 牛込人のゆく 係

冬彦 二川 護物 袁了 巢也 旧友 真彦 旬光 壺山 割山

寒

冬

冬 構

佛櫃のひしを兼ふさく川
終の寺の老く更ゆく巨燵
おろしや巨燵をのけし構
祝まきししや中りし
後よ千ん日有なく
茂枯むく前めしちも
あまき山くまきと
おろしよお葉よ替のふ中
枕もあしぬ本葉や
おろしハニし冬

朱木
燵帳
孤山
木父
屏魚
茸丸
車両
菊塙
百池
伊勢 響

冬 籠

冬籠けしより
七くさのまきぬ小倉や
林けし十日履て
埋やわあし
くつしや
埋や
有ふ
投や
そ東

具成
衰下
瘦菊
伊勢 茶
太郎彦
儲史
伊勢 虚舟
晋峰

埋 火

火 桶

火 鉢

一くちあふく桶を出す家越ぐ
おかしきう又ぬく桶の折あふ
いろくくの袖口とゆふと糸うか
何くもどくさく結し太く法
白雪の舟ま川 者のや餅く
山伏の鼻つゝ焙る田舎裏
おしけふや田舎裏まらるる
夜吐の古くあきしいろく
寂けく家うちおれよ心ゆく
撥ひとむ子年 株の標本

玉珂
水直
夕夜
碩布
茶静
詠帰
松社
芳居
護物
昌作

田 舎 裏

炭 竈

楳之はく川ふる年のうしろく
壁越ふるも志くくや楳の心と
小きやうく焚ふてもあし雪の楳
撥くくやふく屋控ふる白もさ
炭竈ややく人さくく撥ま
すく竈や罪くくくおもさ
炭くはくさくく飛く夜う
炭くはくさくく雁もかよふ
すく竈やうく浮草く
おれた炭おれ 雪のけし

椿海
氷佳
新賀
竹山
音蘿
みち夏
雪雄
観海
玉珂
椿堂

炭

新

新

糸のこの夜をせんとてい岸の日は
 雨をまじく夜のちやうとくまの岸
 夜のうけわくく起すまのあま
 空らひてかりくまの青金さるる
 さびしきや燈塔の波の身おどろ
 比丘さや河原ののちもく守新
 杉のちかきも老や人ほくく
 田まきよ春中小ぬらゝ羽衣
 糸うくく新重ととし老みきり
 こくくまのくくくくくくくくく

魚眼
 半の夜
 石芝
 杉長
 志き岐
 草太
 護物
 みるき
 定雅
 女
 くくく

帝衣

湯波女

帝衣をきておぬきまゝ形お父りか
 搦の室よまかゝんくくくくく
 蒲をまき福や山搦持ゆき
 子多崎の坊へまきまふく人うか
 休もかき月りのかみや蒲蒲虫
 すつちまてぬきまきまのまきんき
 黄葉のちかきまきま蒲まうか
 糸をまき夜のちかきまきま衣
 小巻子の雨もまきまきまふま
 出ー入のまきまきまきまきま

玉到
 護物
 みるき
 百御
 東一
 菊雄
 護物
 午心
 ちち雄
 一月

蒲團

衣

五十七
 五十七

頭中

頭上を一夜中一ひのまきつる

月居

まきつるや頭中かうくのいしはえ

木尾

孝経そのとてまきまき一ひ中ど

ノ且

人あつらひ一ひ中の形もか

甚々南

そのまきまき子まきつる一ひ中ど

瘦菊

を付の雀ハおえうの頭中まき

狛山

足試まきつる味もあゆまきまき

蕪村

まきつるまきつるまきつるまきつる

五明

おまきつるまきつるまきつるまきつる

工朗

抹上のまきつるまきつるまきつる

愛南

足巾

納豆

古時作やまきつるまきつる

夢松

納豆汁かハ鼠のいほまきつる

月峯

納豆や五三の相対小まきつる

葛三

納豆やいほまきつる納豆汁

百番

納豆汁のまきつる納豆汁

漢鶯

納豆汁のまきつる納豆汁

夕長

山菜おむや一枝うまきつる

いち長

山菜おむや一枝うまきつる

旭路

山菜おむや山菜ハ一枝うまきつる

李宙

山菜おむの蓋ハ一枝うまきつる

一歩

山菜花

四年

枇杷花

山と雲と色か日と餅ふさふさよもあつくる

一蕙

くさし花をたもふくはるく玉子のたね

佛仙

かこももこ木了すえくや枇杷の花

いろ夜

枇杷のむさくやうぬらちちぬらち

咲菊

もろ峰さけくもももももも

蘭

四月の夜くくええ枇杷のむ

園村

茶の葉の十株もあふ日南の香

若翁

むくも甘けは持ぬ茶はくも

三夏

茶の葉の泣きもあふささくもあふ

東湖

茶の葉や名をうけく山の町

車函

茶花

梨花

葉のむす孫のくつゆく自刺り

護物

くよきておらるるさきりくくく

瓦全

干稻のぬくくくくくくく

耳谷

井むくく香のくくやくく

東嶽

移りき年のまきくや帰る

八朗

くくむくくくくくくく

江川

柳のぬくく人ほすははる

泉兆

ゆきくくくくくくくく

白雪

ゆきくくくくくくくく

鳥旭

ゆきくくくくくくくく

三和

梨花

柳

柳

冬牡丹

枯てくし伸しとけりし梅りぬ

律居

降るものおろきくぬき牡丹

扇

十月のむすひをいさめんとぞ

双胡

雪よけや鶴ふ宿の冬牡丹

石芝

冬牡丹人ハちのさきんりち

茅山

今年花

その足り勢味走らやちるいふ

東莪

日くくやハハハハハハハハハハ

木木

盛るぬくちよふおろハハハハ

茶靜

ハハハハハハハハハハハハハハ

一肖

水仙花

水儂のふさや花をさきものよ

花川

水仙

水仙のちくくくくくくくくく

翠喬

水仙の人も床よとや小葉さす

鶴志

水仙や人の背をくくくく

豊女

水仙のさよまけくくくく

石雞

寒菊

嗅はもて重ら菊折よ這入り

希言

重ら菊の日くけまらぬ白ひ

五繩

重ら菊や鶴ふぬある鳥もき

さち雄

重ら菊や鶴ふぬの日を偷む

雉啄

重ら菊や鶴ふぬのうり

子明

石落花

中落葉人ふくきハハハハハハ

士朗

枯尾花

すみ切の口じきりるるる露のむ
信主の馬無き一りや信主のまふ
石菖蒲や鏡まひるも昔のむら
聖くしるをそくちりやそ 芒
そえの日にしをころん 芒
ものいそぬ人よ何のなきあすもそ
枯芒を看遊し出す小たうち
くまじしけりみ 芒もくちくち
そふくの月より月のうれ 露
ふき履もをれてうけさす 蓬

棹歌
伎
美
杜英
棠枝
子明
み
木木
以湖
李冬

枯芒

枯萩

枯菊

をねもきそふしれ果るや枯尾 露
枯しうろくそめく 尾もじくく 露
山流ふえそ 蟹の尾花枯より 露
うね尾花日の入るのけさまう 露
うれくや波うりむくそ萩のむ
夜の萩萩くまふも枯しりり
萩の枯の袖くはくそ 枯まう
枯るまそ風もつ萩のゆらるる
枯るまそ葉てはくそ 枯井戸
花かうく火く舞く菊の枯枝

蓬
東
耕雪
呂律
曉臺
長翠
阜池
木木
和夕
其翠

菊売も売てくものこゝろ 小繩を
女子代

冬草の敷くハアめよ菊うぬる
碓氷

うぬきくやうぬの子付もちゆり 疾
護物

冬草のこゝろもつ萩の枯葉うな
眼道

枯草や何となくくまふまうら
みち

萩すまゝいこのやうな枯くぐり
乙二

岸しれ葉うき鹿の尻くゆり
普記

冬草よきくけあきあきの小葉あ
守一

鳥の鳴くれぬあきあきの竹
詠瑞

漣もはくくあきあきのさ
南井

冬草

枯草

枯芦

冬草よきくけあきあきの小葉あ
鳩居

山うけや灯ハくはくくうう芦
徂牛

の色芦ゆりくくううの乾くき
石充

枯芦もさつあきあきまき
三磨

これ芦や田まかきあきあき
呂律

孤なく畑田の枯芦うぬきけ
東壽

枯蓮をぬきくくくや時り医者
みち

うぬ蓮や鳥のけきふ 絶り中
孤山

枯蓮の雨んくくくや空の坊
芳居

麦まきくや百まきくくく 白くく
蕪村

麦時

枯蓮

下

下

蕎麥刈

あつや根こまきく末のゆきけ
まふや比の家鴨の久はまこ
かへ勢の代もく名をまよく
そと刈よきくそれを滝のへ
蕎麥刈や終るまき赤人ほ
笠尾ハ旗人あつ大根引
船底のまよひぬ日を大根引
暮き大根よきくそよ門
せ移つる子も終りや大根曳
大根引やハ船首のよふく

白雄
蕉雨
双湖
今更
年緒
其堂
杜美
禾木
梅溪
淡水

大根曳

蕪

おひひくう房のくらの瘦き
おきや葦のくらの薄き
たぐまはは日如やうぬり
ゆつくと勢の月夜うき
百りうきはまれり
みの由れけ菜をまきよ
其き魚の吹けるや約か
くき人のまや下菜は味か
かー菜けるのうまハ
古うちやあつ出さく

白雄
みき
蒼虬
志け
何丸
白雄
春鴻
其芳
太郎
来柜

下菜

葱

六十五

落葉
 落葉の香や春の風よとけりしはたこ
 菊のけしきや刈置おしへとす
 るよあつた朝のうらやほあつたけ
 春のうらやまのぬき白さく
 十月の旅のいづる木葉ふる
 ちのあまて流枕人すよのこ
 ちの木葉悲しんえい阿まのこ
 走るれいの木葉ふるやあまのこ
 来りぬくきつとくしはたのこ
 年の子とすく志はあやあまのこ

目尾
 井尾
 魚尾
 亀文
 故友
 掉歌
 五繩
 為梁
 田都喜
 蓬松

紅葉散
 紅葉はむ宿や崎きりの苗
 る志くし馬の尾はく紅葉の
 赤き屋の水のよとくちのこ
 ちの紅葉赤きくぬくも光るこ
 ちのやもみらあまのこちのこ
 紅葉ともいぬぬ紅葉の雪うぬ
 秋夕のあつた子とくちのこ
 加つ紅葉ふる片敷けやあまのこ
 秋夜の来て鹿いづれぬ木立

凡二
 松蘿
 乃也
 夕夜
 歩簫
 石雞
 栳生
 大い
 茶陵
 旧友

六
 六

善き見きくくも然りさるるが
鹿のきくもあつえりうもあま
冬くまま小町の翁はくくく
抱てゆく翁なくやそそそ
瘦あゆのゆきてくれあすあや
あのみや片つれれー古草の
水まのふけ日南まきーあや
靴の小きくくあつあつあ
夜よ入るいふ山くあつあ
人家くくくくくくくく

枯野

七はり
華芝
梅言
衰了
右雄
古玄
菊嵐
蕪村
雪雄
瘦菊

稲妻のあつくおろす枯やう
かー冷の美まろくくあや
くくくあやあやあや
くくくあや馬の通るーこを
朽や入口のくくく二日月
冬山山くくくはくくく
朽くすもあもくあやあ
あやあああああああ
あやあああああああ
あやあああああああ

冬山

朽野

茶静
焚布
訓山
一菓
竹岐
嵐丈
梅関
善野
千枝女
まら雄

冬

田

冬田の田はさく人かくるに冬田つら

白養

冬田の田はさく人かくるに冬田つら

芳行

大の子は冬田の田はさく人かくるに冬田つら

春来

板の冬田の田はさく人かくるに冬田つら

護物

冬川

五明

冬川

まは

冬川

み

水鳥

し二

水鳥

居夕

水鳥

草均

鴨

水鳥の足より冬川

樂山

濡かき昼より冬川

未

番部そのうち冬川

笑九

尻さその鴨ん冬川

乙二

脊戸や栗売の冬川

弄山

鴨ふらや葱盗人の冬川

川二

おゆい羽のかき冬川

車蓋

冬川

萬籟

冬川

くは

冬川

一肖

鴛鴦

雁鴨

谷中鳥の二羽つれを以て

護物

雁鴨の鳴るる上宵の

乙二

厚くもの位はあきま

太郎彦

一鴨の畔持合ふ

雪彦

千鳥

糸耳くちをくちく

みち彦

鶴のたては

伯先

川千鳥の鳴るる

介立

そのまゝぬ夜を標ち

南鶴

瓢箪くちくちく

仙舟

鳥

鳥や竹の葉はく

蝶夢

あふはくや枕は

春鴻

鳥もかゝは枯

みち彦

罪のあき息

竹児

をねくちくちく

蕉雨

小 兔

木兔引る身も

乙二

みつくの空

宇橋

木兔やえゆ

茶静

そはくや合

木木

寒 苦 鳥

をく苦鳥

葛三

足くける木

竹児

鷓鴣

山柳の木はすそめぬえう昔も
串のくよた本落しおひうえう昔も
湖のけけちの取者、午をけくお
一、朝も暮も子ハア、けい、くそけいお
聲の素阿おと、海に、鷓、鷓
おうれゆく昔や、く、けの鷓鷓
みそきおお出口の本、枯木、く
に、か、も、お、く、む、う、山、の、を、す、く、免
け、れ、ぬ、ハ、梅、よ、雀、も、ま、あ、も、ま
か、よ、え、ー、ア、も、け、お、く、お、ま、あ、冬、

菊後

芳居

乙二

葵亭

北元

朗光

一雨

亀夫

我山

みと長

冬雀

冬雁

冬鳥

冬蠅

おれ、く、も、あ、く、く、く、け、あ、ま、ま、の、原
舞、く、く、お、ろ、く、く、く、く、た、ま、の、原
原、お、く、く、あ、ま、の、日、ぬ、く、く、知、處、所
年、く、く、あ、ま、く、く、く、く、く、く、原、の、原
新、く、く、く、く、く、く、く、く、く、の、原
お、れ、く、く、あ、ま、く、く、く、く、く、く、の、鳥
田、ハ、鶴、よ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、の、鳥
あ、ま、く、く、あ、ま、く、く、く、く、く、く、く、く、く、の、鳥
新、風、や、あ、ま、の、鳥、の、原、の、鳥、の、鳥
あ、ま、く、く、あ、ま、く、く、く、く、く、く、く、く、く、の、蠅

輪之

南井

竹馬

久藏

今度

三津人

鱸江

蘭

白度

白旗

河豚

冬のくま登かす附の葉木ろく
 稲垣や夕日魚くくくをう縄
 世の中をくわくおを吾もくを力縄
 冬の縄人多くうけくくしりり
 一粒のうくくまうくく鯨う眼
 一のもろ二の傍文のれくくく
 鯨切もくくまうくく八和まぐく
 鯨さけくく作の中及くくう子き
 新市や河豚くく百八風くくく
 かく一ツまてんきくくやいそま集

玉珂
 素地
 文貫
 巴丘
 荻丁
 詠席
 杖技
 白雄
 吐月
 山二

鯨

鯨汁

生海龍

鯨くくくやくく世のくくくく魚
 刺息を足けくく夫や鯨くくく
 君くくけの人垂ひくくくく付
 鯨くくくく出きくくく月夜く
 天津彦の鬼も取くくく鯨の編
 ぬく有くく休はくくくく南
 杜父魚や能固あくくく十集ま
 くくくつの集くくく夜ぬく
 杜父魚ハ夕月去くくくくく
 生海龍くくく酒をんくくく

荻丁
 三彦
 篤夫
 阜二
 東一
 旧友
 孤山
 一月
 護物
 春鴻

杜 鰯

細代寺

ちりちりかきまらるる雪の杜鰯
 笑ふ川へ投るんくりなるるが
 ゆりゆりおのろけぬはあふれり
 浮をまこ月の本葉の影しりり
 ちりちりわびきまらるる雪の杜鰯
 石花抄の浪もかまのり色くそ
 うき行ゆるもよもよあはれ二日月
 世もよもよも波るの坊あはれい
 いと杜鰯や芦もよもよあはれちり
 いららるる鼻の笑う朝あけけ

友 困
 阜 池
 扇 和
 麻 交
 保 吉
 士 明
 掉 歌
 栄 枝
 兩 交

茶 漬

夜 奥 曳

かりりあはれもよもよあはれちり
 いづまを髪よー山とあはれはる
 射ぬきのかきもあはれ細代寺
 いららるるもあはれふもよもよあはれ
 ちり漬の志川もあはれ小舟も
 衆の奥をあはれちりちりあはれ
 ちりちりあはれ月もよもよあはれ
 西りもあはれつちりちりあはれ
 夜奥の川や夫のこころむる婦のこころ
 いのちをよもよもあはれちりちりあはれ

芳 竹
 東 一
 魯 丈
 孤 山
 乙 二
 玉 珂
 玉 旌
 護 物
 燕 村
 曾 逸

ワ〜〜や水巻を〜〜夜鳥曳 一首

霜月

霜の霜うそぬよふあさ山 玉珂

霜月や首仰てう〜山り 籾

霜月ハ南丁の雲の目知ら 左学

霜〜〜やねむくしらのゆ〜山家 夢南

霜をさ〜〜あ〜〜は〜〜小里ト 全彦

刺 息 首 仰 一 方 々 至 々 南井

系丁〜〜あ〜〜冬至の門田ト 茶静

日の〜〜け〜〜ふ〜〜二の舞へる冬至ト 行馬

冬至

くちね〜〜の冬至の〜〜も〜〜黄〜〜山 狐山

か〜〜ま〜〜や〜〜の冬至も〜〜の〜〜山 九葉

長右主の供も〜〜も〜〜山 何休

米の〜〜の〜〜冬〜〜け〜〜山 万祀

冬〜〜の〜〜の〜〜冬〜〜神楽〜〜山 菊程

木兔の白〜〜灯の〜〜山 出〜〜山 岐山

子〜〜の〜〜の〜〜の〜〜山 美山

子〜〜の〜〜の〜〜の〜〜山 大

子〜〜の〜〜の〜〜の〜〜山 大

子〜〜の〜〜の〜〜の〜〜山 律山

冬至

神楽

子祭

山

山

吹草祭

子ノ籠ノ掛ルモ撫よ子燈ノ

護物

〜〜〜以草ノ葉もふるの〜

輪之

あつ以草葉付〜下り〜

孤山

以草場もあつ夜更男自立の如

護物

御火焼

少少焼や〜火〜

一草

清火焼の長〜白や青金足帛

未木

〜〜〜有〜被治分ち〜

雨蛤

空也志

空也え〜持〜

高三

空也え〜わ〜

空阿

空也え〜あ〜

碩之阿

鉢敲

柳の葉子書〜

真栖

〜〜〜木〜

松鳥

木枯の身〜

伊勢 壺舟

ぬ〜人〜

淵也

西〜

護物

寒念佛

冬〜夜〜

鉢船

〜〜〜

万壽友

〜〜〜

雉扇

木兔の身〜

曲阿

ぬ〜

石芝

報恩講

いまおけつくそくゆき	いづれ月	乙二
馬さしつ 涙をうさよ	雪月	蓬山
うくと 眞味をゆく	赤月	集賢
おそき人て 布衣流下るや	おれ月	長島
るるこの 葉さるもきく	おれ月	蕪村
歌よきの 幕よ夜半の	ゆき	孤山
白くもくと ぬくも	きさの 葱の味	頌翁
呉市の 白くも	比ね	秋友
萩や 紅葉はく	雪を待	茶未
雪よ 和さや	雪の味	

貝居

雪

雪のりや 尺さう	なまの 雪の	巴堂
くはりや 雪ヨ	てき	夜江
片里や	雪ふ	節志
雪ふ	ふ	みち
雪ふ	ゆ	月居
雪ふ	ゆ	夢南
雪ふ	ゆ	五真
雪ふ	ゆ	東一
雪ふ	ゆ	川二
雪見		屋烏

夜雪

舟よりの馬よりいづれも雪のふり
梅子かきつらふてかきつる雪のふり
梅木よりいづれもあつる雪のふり
江の雪やあつる雪のふり
きりぎりすや二夜目の雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり

平島
家鷲
かき
宇洋
丸芳
木木
李峯
茂木
蕪村
保言

雪吹

志卷

雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり
雪のふりいづれもあつる雪のふり

巽哉
起石
利根古
玉光
女長
炉扇
乙二
嵐非
有月
梅壽

下

下

実

山松のやうくけりるわき無ど
多し〜く〜年うなふ〜とれり
鮭、照れ鮭ふぬ〜と〜
み〜や草摺の葉ハ赤〜
芦の葉の青も実の夜ゆまて
宿とあやみ〜向〜の面
拾〜の〜やゆ〜
組〜の〜や〜
お〜の〜置の〜
さ〜の〜の〜

蕉雨
守三
雲二
鶴夫
早夫
丁
平記
川島

氷

少〜の〜
山里を月〜の〜
も〜の〜
少〜の〜
はら〜の〜
旅人ハ〜
海〜の〜
いてる夜の氷も〜
葉〜の〜

壺山
芳之
カ
萬丈
孤山
みら
玉珂
木木
一月

凍

雪車
雪車〜の〜
雪車〜の〜
雪車〜の〜
雪車〜の〜
雪車〜の〜
雪車〜の〜
雪車〜の〜
雪車〜の〜
雪車〜の〜
雪車〜の〜

葉氷
一月

示

示

横

冬梅

行ひのりや門を並しりー 雪舟の教 竹音
 雪舟のそとをうちうちとくやうと 東鑑
 山所やちとあふれふき梅の神 晋峰
 雪舟川や寂ふも知れり遠以 聽雨
 城々如梅のしらふ早光る 白眉
 ふささし旅人梅をく換みうり 保言
 酒々きし里ふ入口のかりまぶ 春鴻
 月をゆいふけきまうー梅をく 石見
 教遊の日あつはらうらふの梅 環阿
 風りの船あささー 冬梅 吳葵

寒梅

冬椿

山菜むはちあまもふーあつ梅 单天
 梅れも負く玉光ふ色々の梅 玉光
 冬梅やさー出さーささの家 古樂
 冬梅の二あまてさく厚あふふ 篤志
 冬梅はーささのささのさささ 一肖
 菜々さささのささのささのささ 乙二
 人々さささのささのささのささ 雪雄
 小一はさささのささのささのささ 對山
 冬入ささ一ツ咲かすのささ 魚文
 冬々々々ハサササぬららるる椿 護物

下

下

鷹

省の煙やすえとむける夜の春
春なくやぬくふくくる春戸のふ
ふくむてえらうく春の春をり
川上へおろしーくく春の春
新川や春の春の春をり
新春の春の春の春の春
春の春の春の春の春の春
春の春の春の春の春の春
春の春の春の春の春の春
春の春の春の春の春の春

春鳴 知及 輪之 焚指 白雄 乙二 鳥丸 文晁 護物 無説

雁鳥特

煙

鳥叫

山さうくくらとをかりや暖め春
春のをぬとめと降あそむるぬ
くはあそむる月あそむるぬ
あつは春の眼やさー 暖め春
春叫びやぬを流す春の中
春叫やさうとをわする春の中
春さうかや春の春の春の春
春叫や草よくつー水煙く
春さうかや春の春の春の春
春さうかや春の春の春の春

乙二 扇暑 祇白 枕生 春鳴 孤山 一宵 護物 春鳴 双湖

落草

落さうかや春の春の春の春

双湖

カ草

その香はまよふかたやちうく草
草はくくまもら後くま力くき

石 菊

師走

日あつとるの海の色歩まき
百歩の藤おま入ー休まき
君をゆや人の歩まきを海のつる
りちよふ船のつるも師まき
秋葉のかきこ碎まき川をく
物えきて羽織子筆を川にこ

表丁 茶 菁丸 松園 石 碓

臘八

貫之エト下の海法を川をく
備ハやま入人ほち水く之は時
備ハやま知て旅手は男の形
備ハやま奉り新日の後くま
丹くまれの備ハソよれ小似城
傍にまかてハまきー以はえ
衆ハまねまきとや雪のうつけ
心まやうよ白果くまきて以はえ
仏名やまおろくま波のく
柳の葉をほむ人まよや以はえ

護物 大擗 茶静 檀立 一 月 曉臺 柳 几 諸九尾 夢南 護物

カ

カ

事始

こり始まるといふ言の麻一り色
人のすゝやみのすゝとまきく一欠
裸はくく茶の虫まきまき一欠
縁まきの抄まきしりまき一始
終の香ぬ初ハハまき一り始
庭をうすすや湖まきのまきの入
雨まきのまき終一終のまき
まきの入雀りの雀まきしりまき一
朽根まきは日まき一まきりまき
まきまきをまきしりまき一りまき

千柳
梅人美作
鳥旭
曲阿
月一
松兄
まきまき
樂水
双湖
文貫

入寒

寒雨

大名のまきまきハ知れまきのる
崩まきの隣まきりまきのる
朝あつたまきのまきまきの角
まきのまきのまきまきのまきのる
まき月まきのまきのまきのまきのる
まきまきのまきまきのまきのまきのる
まきまきのまきまきのまきのまきのる
まきまきのまきまきのまきのまきのる
まきまきのまきまきのまきのまきのる

寒月

まきまきのまきまきのまきのまきのる
まきまきのまきまきのまきのまきのる
まきまきのまきまきのまきのまきのる
まきまきのまきまきのまきのまきのる
まきまきのまきまきのまきのまきのる
まきまきのまきまきのまきのまきのる
まきまきのまきまきのまきのまきのる
まきまきのまきまきのまきのまきのる
まきまきのまきまきのまきのまきのる
まきまきのまきまきのまきのまきのる

寒食

玉珂
袁丁
呂川
亀夫
乙二
志中
喜山
晋峰
尺城
吐月

乾 魁

印の白くそふく口と茶と葉くし
の神もくゆきしとまへ茶喰
く魁やくこまふる人の志
乾魁も水水り浪り活へり
まきくや乾魁くく人望の行
乾をけりお茶をさく家の境
年のくちふちを信をく口のそき
まのくちふちをよつる音ひし
ね賣もまぬ。まきくしとめり
年のくちふちをねくく色くくまきり

五明
春鴻
車蓋
士明
乙志
柳凡
士朗
佳音
素樂

年内立春

追 儼

於 賣

節 季 候

く越の坊もまきりし 魁 計
魁を過ふおふと厚をくつ田を
く川もまきりしとん地まきり年の豆
く所や今年内くまきり 於 賣
二度くまきりしとん地まきり 於 賣
まきりしとん地まきり 於 賣
猪川もまきりしとん地まきり 於 賣
まきりしとん地まきり 於 賣
まきりしとん地まきり 於 賣
まきりしとん地まきり 於 賣
まきりしとん地まきり 於 賣

みちま
葛三
玉光
南井
巴人
輪之
泉之
玉珂
孤山
石芝

呪等

呪木ふくし花うきくまきん

中舌

其まふのうきくまきん

梅溪

煤掃

煤まきや山の家の萩のや

三津人

煤掃や川をくまきん

興山

す掃くまきん

茶静

煤の家鴨一日まきん

美

煤のりや五反屋まきん

難隠

をいふまきん

中舌

餅つきや梅をまきん

梅兮

もち蒸や例まきん

赤井

餅搗

衣配

くく竹の香もまきん

吐月

流もまきん

平角

流雷の書もまきん

東阜

きぬ配了漂母の信の沙流もまきん

中舌

羊削了強もまきん

白養

余まきん

知取

船の草もまきん

嘉川

羊の市神もまきん

中舌

もちまきん

中舌

羊木

羊のすいふもまきん

中舌

中舌

年用意

大竈のへんり年木の雪下りぬ
 行児
 年木はほむらうやまの杜る
 和調
 鶯の葉うささちん年木は
 年守
 子う家の波躍てぬやう用意
 吟
 鄙うや掃一掃も年用意
 根葉
 人うえそあうめ家のうう用意
 宇橋
 年忘度中の詩をるう吟
 樗良
 うきあし似ーらうさや年忘
 吉蓮
 年うれ件ハゆつ夜んけこ
 太柏
 二夜うハ子うまのひう年忘
 月守

年忘

古曆

古曆十日の菊うううそれ形
 夢南
 曆古ー深碧う泥の巻はめて
 可曆
 うきあし似の候うまう古曆
 棠枝
 年うれうあふあーう曆
 柳美
 春ま川 やうと魚う少うものふ
 みる辰
 春を待眼う乙をの古菓ハ
 葉路
 一うはくまうと付ぬまうー
 紫金
 春ま川 やまのううこのまの畔
 石海
 西月をううてまううまう子
 玉光
 春のくるころのうう子
 存義

春待

来春

春のくるころのうう子
 存義

行年

戸口さへ何となく喜しく旅えんのや
来りまきの使をすする丘の草
北へ年や夜もせむかたの月
ゆき年のむよ深ふくく天機
ゆきまやほ由よまきり影の
影もつてけ年の心 質朴ふこ
け年のさるれふむくき道家
費しこ日をくせやくも 見えうぬ
はくくく 遊きくくへる見え
番物よふ見えくくくをくわむね

閑見

鳥口
冷水
鴨國
杉廬
古岳
遠江 五雲
鹿河
葛三
夢南
護物

年籠

何ゆきのゆきもきくくく
眠りおそ梅をんよおきり年
くく 著んくくくく 後もか
小窓くくくくくく 年の著
くきてけ年や餘のゆきくく
ゆきの著 兔も耳もくくくく
著んくくく 重もあつて 年の著
掃活のまよもておきりくく年
くくく 人の出てくくくく

歳暮

大年やほ連よくくく 花の徒

如斯
梵狂
竹児
金彦
卓池
其白
可盈
茶静
白居
古玄

大晦日

小正月の柑子さくらや大晦日

詠帰

むつしや年のほまきめの梅老の装

一莪

年夜

かひふの蔭うまうそ年の宵

会春

年の夜や紫ふけら ね 養

乙未

とりのあやちの旅人出て歩り

鷗里

年の夜も初づけ白子うち良冠夫

瘦菊

除夜

ゆいしやくもあましくえりし除夜の梅

樗良

ねうをわ除夜の枕さる東き人

保吉

来ぬとぞむすもくし除夜の文只る

孤山

又守しくも思ふよあしりし除夜の梅

譜物

春

追加

暁の折さの目をそくしり

村濃

くらげさやたしらのんおかし

亀女

花よみふのうけうきねう福寿軒

栖霞

て地の呼吸若川が梅の花

雨休

不盡くまを魚をさけし梅林

鮭井

枕の目やねはうさくぬ人の友

佳夕

雲流うさけうさの人の柳もさえぬ

六音

春の赤のめやハのうさくね

新賀

花うらも流る早うさし子叔

雨休

夏

秋

五月もや葉の味りくるこのよりの
 鹿の子のまももはじりしるは葉
 ふのそをい五合の室やおつ 氷
 昔清水ていよめよふよめいし
 夕まわふと舞りしもくまふの用
 酒早の飲んじりてりもくく
 世の中ハ味くくていよまの味
 くら花やまのふさのさのさ
 つくしぬぬれいしりやまの中
 鈴鳥やまをさる下のまくく

楓所
 其毫
 杜成
 六首
 山花
 一賀
 得我
 再可
 百里
 佳續

冬

虫の雨孫 西く思ひ
 蓮の宮に水もさるの月
 破刺家のくさるを打 枯
 枯くまのまのふくく 軒まら
 泥車をさるま せふのぬ
 藤 笛や人のくく ありんか
 うの中のははまのくさるぬ
 灼る鳥のふくく けいさる
 くら汐のまふくく 鳴まら
 白鳥とあをさる 雪もさる

萬山
 雨休
 村濃
 六首
 萬山
 百里
 得我
 雨休
 六十
 六首

六
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

江都書林

下谷御成道

青雲堂英文藏板

小學本註	二冊	增補文語碎金	二冊	八面鋒	四冊
扶桑蒙求	三冊	宋名家詩選	二冊	晚唐百家絕句	五冊
題画詩類鈔	二冊	香齋集	一冊	和歌題百絕	一冊
三大家絕句	一冊	蜀山先生詩集	一冊	東征稿 西上記	二冊
漫遊文章	五冊	昔々春秋	一冊	酒中趣	二冊
左傳凡例考	一冊	左傳比事	一冊	歲華一枝	一冊
歲華一枝拾遺	一冊	名乘字引	一冊	名乘字彙	一冊

略註五經字引	一冊	篆書字引	一冊	易學小筌	一冊
書家必用	一冊	書家錦囊	一冊	書家便覽	一冊
古韻通叶	一折	醫書之部	一冊		
		治痘要方	一冊	治痘要方補遺	一冊
痘疹戒草	三冊	痘疹養生訣	一冊	痘瘡食物考	一折
治痘要訣	一冊	續痘科辨要	三冊	種痘辨義	一冊
保嬰須知	二冊	方函	二冊	日養食鑑	一冊
雜書之部					

三省錄	五冊	世事百談	四冊	瓦礫雜考	二冊
東溪倉百首	一冊	子昂真草千字文		子昂龍興寺碑	
隸書醉翁亭記		蘭竹畫譜	二冊	竹沙小品	一帖
光琳百圖	二冊	光琳百圖 <small>後編</small>	二冊	光琳百圖 <small>後編</small>	二冊
畫圖撰要	三冊	一蝶畫譜	三冊	蕙齋略畫	二冊
刀釵圖考	一冊	刀釵圖考 <small>二篇</small>	一冊	裝劍備考	一冊
鞍鐙圖式	一冊	甲冑着用辨	二冊	貞文家訓	一冊
田畑調法記	二冊	百姓袋	一冊	按心方圖鑑	一冊

珍錢奇品圖錄	一冊	古錢鑑	一冊	佛鬼軍	一休 一冊
三畏一心記	一冊	日蓮御代記	一冊	善惡種蔣和讚	一冊
八部拔講釋	一冊	曆日講釈	一冊	將棊圖式	一冊
歌書之部	三冊				
貫之集類題	二冊	<small>香川景樹集 桂の落葉</small>	二冊	<small>海野遊翁詠 柳園家集</small>	二冊
千町拔穂	一冊	園圃拔菜	二冊	萬葉用字格	一冊
靈能一貫	二冊	源氏物語系圖	一折	<small>手柄岡持狂歌狂文 家おんそる</small>	二冊
蜀山百首	一冊	仮名類纂	一冊	<small>竹村茂枝集 穗向屋集</small>	三冊

俳諧之部	一冊				
俳諧故人五百題	二冊	續故人五百題	二冊	掌中故人五百題	一冊
新五百題	二冊	新々五百題	二冊	嘉永五百題	二冊
今人五百題	二冊	續今人五百題	二冊	今人五百題	<small>三篇</small> 四冊
近世五百題	二冊	白雄坊五百題	二冊	<small>過日庵撰 今人百家類題</small>	二冊
<small>過日庵撰 近世十家類題</small>	二冊	名所千題集	三冊	題林發句集	四冊
十萬發句集	四冊	乙二七部集	二冊	曉臺七部集	二冊
今七部集	二冊	嵐雪句集	二冊	發句類聚	二冊

發句古今撰	二冊	<small>過日庵輯</small> 蒼虬翁句集	二冊	今人發句集	二冊
俳諧寐癡	二冊	饒舌錄	二冊	<small>過日庵撰</small> 名家類題	四冊
一葉集	<small>芭蕉翁 一代集</small> 五冊	一葉集	<small>後篇 翁之文消息</small> 四冊	俳諧集草	十六篇
俳諧四季草	四冊	安政五百題	二冊	<small>過日庵撰</small> 類題金玉集	四冊
風俗文選拾遺	二冊				
梅澤先生手本向		庭訓往來	一冊	風月往來	一冊
千字文	一冊	消息詞	一冊	庭梅帖	一冊
御成敗式目	一冊	女今川	一冊	女雅俗要文	一冊

新三十六歌仙	一帖	雪後帖	<small>石摺</small> 一帖	新撰詩歌合	一冊
續撰朗詠集	二冊	實語教童子教	一冊		
諸流手本向					
尊圓古今序	一帖	同真名序	一帖	尊朝瀟湘景	一冊
大槁庭訓往來	一冊	大槁新年帖	一冊	橘正敬庭訓	一冊
正敬商賈往來	一冊	蓮池堂法帖	一帖	瀧本芳野道の記	一冊
瀧本鴻書帖	一冊	雜書并繪人物之部			
		<small>曲亭馬琴案文</small> 雅俗要文	一冊	<small>十返舎一九案文</small> 諸國書狀指	一冊

教訓圖會 <small>前後</small> 二冊	皇朝三字經 一冊	繪本國恩俚談 一冊
大學笑句 一冊	裁縫早手引 一冊	米錢胸算用 一冊
每朝神拜小言 一折	<small>式亭三馬作</small> 小野馬鹿村 一冊	<small>十返舎一九作</small> 附會案文 一冊
<small>山東京傳作</small> 滑稽文選 一冊	安見道中記 一冊	唐土名所の繪 一折
甲越勇士鑑 <small>前後</small> 二冊	諸職雛形 一冊	花鶴百一首 一冊
女大學玉文庫 一冊	女庭訓往來 一冊	



天下 登龍丸 食物一切 合法

一色代百文 一巡代百文

此登龍丸天下一方我家の秘法にて痰咳喘逆通りの丹葉
 あり積六十年女軍痰咳にて上狗痛立成がごとく又留飲
 氣を子母抱胸痛發夜も寐も成うさきも腫き疝を治
 重き一巡了救年才の難忘三巡も用ゆる時ハ急を
 痰を治一咳を止め留飲ハ胸を開き病全くいのる事
 此是又因て心氣の疲れを補ひ血を巡りし脾胃
 調へ氣力を保し考を立云舌六やのよ良考を費し
 一病

延命なる事 救万人用して試て其切の大なる事古く
及希代不思議の妙薬之に切なる事

一 十歳以上年喘息 一 労瘧の咳 一 引風の咳

一 一からせき 一 一咽喉せりつき 一 痰飲取法考出欠

一 痰血の交里 一 痰飲吐ても出ま 一 動気法之北中

一 小兒百日咳 一 婦人産後之咳 一 喘飲之胸痛

一 喘飲之氣塞 一 此介痰咳喘飲より起る病一切よほし

一 苦寒をほすのふ人時々の用ゆる時々の考をきく事妙し

抑痰咳の薬考より法の出物より多く其薬より変りよめて

引札之痰咳之考より及ぶに痛癢近も速よある松より

之どの痰咳喘飲の一病より治し難き考也此は此電光丸

筆之りも痰咳喘飲より医療をほし百薬を引り

治し難き難症より速に治す事六平が家の名法より万人

を救て試るより一人にして治せざるあり後て天下を及の薬

よて他は難あり志回しあのら切能速ありといふ下し薬

婦人産後之咳後より用ひ害なきを知らし能く用ひ

て備あき名法あるを知らし尤印より約及薬多し其

色紙亦此薬より上左よ志る事取次安より此薬を下

東叡山御書物所

江戸下谷御成道
青雲堂英文藏製

東叡山御書物所	出雲寺文次郎	桑名仙臺	伊勢屋中右衛門
大坂の御書物所	河内屋茂左衛門	同會保右衛門	所後八四郎
三石吉田	江戸屋五左衛門	信長松本	高良屋中右衛門
遠州中泉	酒屋右左衛門	同善光寺	小井屋中右衛門
尾名古右衛門	永田屋中右衛門	上長吉崎	沢本屋中右衛門
遠州松	伊勢屋中右衛門	上総徳浦	徳田万右衛門
下総佐原	天満屋武左衛門	下総多古	土屋勘次郎
本丁七丁目	正交堂利左衛門	中河杉本	釜屋中右衛門
後府吳掖所	須田屋安次郎	越後三桑	扇屋七右衛門
加呂金澤	久米屋徳右衛門	同水原	小田島俊左衛門
菅原佐野	八尾屋中右衛門	甲府魚丁	村田屋中右衛門
	堀城常三郎	菅原安次	万屋利左衛門

二冊
号
十



